

*** 東京天文台 26 吋望遠鏡ドームには複数の窓があった。**

2009年4月18日、国立科学博物館で「国立天文台にアーカイブ室誕生—お宝発見、そしておもしろい話が次々と—」と題して講演をおこなった。講演の後、関係者と2次会で飲みに出かけた際、参加者の野地一樹という人が、三鷹の26吋望遠鏡ドームには、昔窓があった写真を見たことがあるという話をされた。筆者はそのような写真を見た記憶はないといったが、調べて見ましようとして引き取った。翌日には野地氏から窓と思われるものが写った写真(写真1)と、ドームの内壁にも窓をふさいだ証拠(写真2)があるという写真が送られてきた。



写真1 窓らしいものが見えるドーム

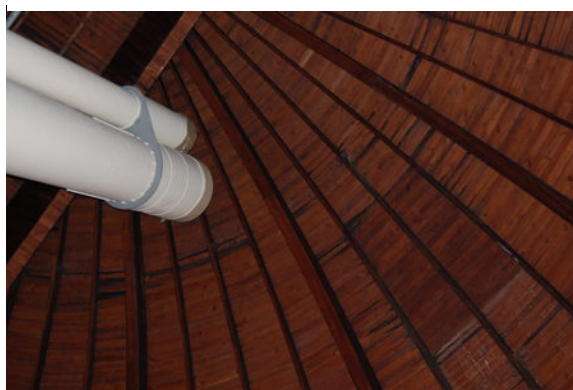


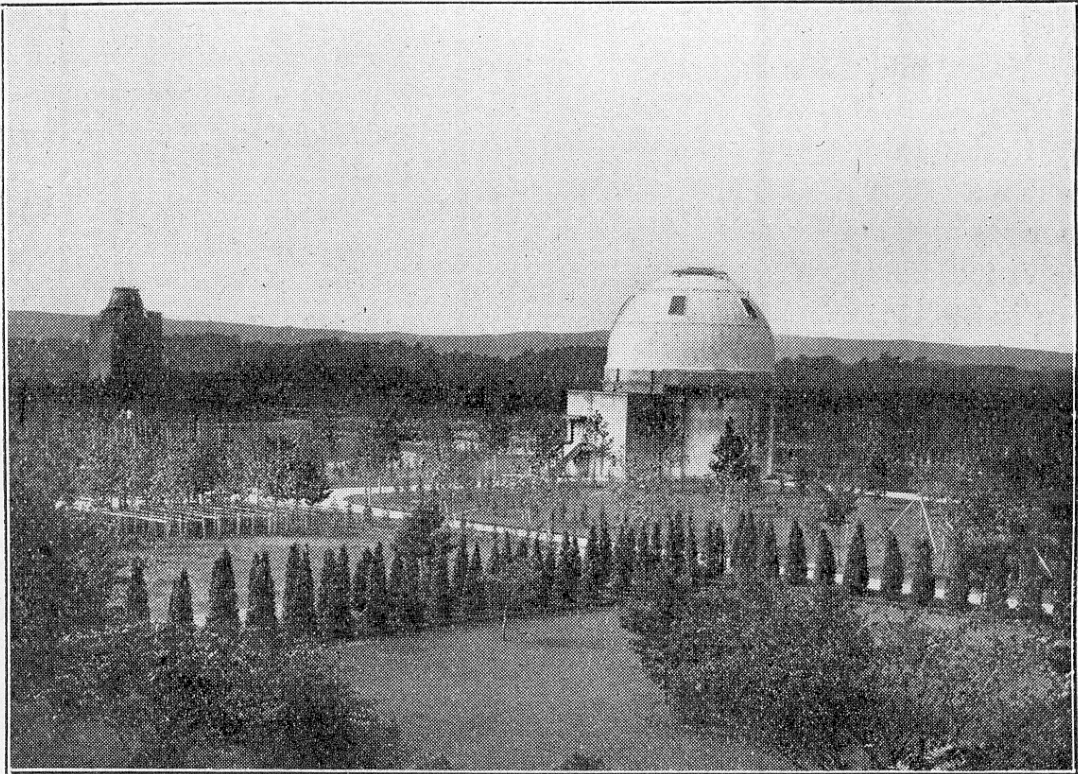
写真2 ドーム内壁の塞いだ痕

このドームは、昭和4年に東京天文台の橋元昌矣らの指揮の下、石川島播磨造船所の手によって建設されたもので、その様子は天文月報第23巻第1号(1930年)に橋元昌矣によって報告されている。この記事を読むと、筆者たちがハワイ・マウナケアで「すばる」のドーム建設の際、立ち会った時を髣髴と思い出させるものである。橋元昌矣の記事にある完成したばかりの26吋望遠鏡ドームが写真3である。



写真3 完成したドーム

左の写真3を見ると、確かに右側に窓枠のようなものが見える。そこでもっとはっきりと窓であると分かる写真(写真4)はないかと捜した所、見つかった。なんと窓は複数個あることが分かった。明り取りのための窓であろうから、複数あっても不思議ではない。しかし、ドームは雨漏りしないドームはないというほどだから、それらが後に塞がれても不思議ではない。窓が何時ごろ塞がれたという記録はまだ見つからない。



東京天文台本館屋上より西南方を望む

写真4 昭和7年撮影の東京天文台本館屋上から見た26吋望遠鏡ドーム

写真4は、昭和7年に撮影されたもので、焼失前の東京天文台本館屋上から撮られたものである。東京天文台の本館は大正10年（1921年）に完成しており、平屋建てだが、本館玄関辺りに屋上のようなもの（写真5）がある。



I-6 三鷹の旧本館

写真5 焼失前の東京天文台本館

写真5の正面玄関上の屋上から26吋望遠鏡ドーム方向を撮った写真が写真4である。左手には塔望遠鏡ドームが写っており、整然と植えられた並木が見えている。現在のうっそうとした無秩序な森とは趣が違っている。そして本館前のロータリーの植え込みが70数年前とは思えないほど似ていることに驚かされるではないか。棕櫚の木というのは、こんなに成長しない木なのであるだろうか。